

[概要]

本研究では、高校生が勉強するために設置していない場所で勉強する理由を明らかにし、空間が利用する高校生に与える効果を検討することで、空間がどのような機能を果たしているのかを考察した。研究にあたり、勉強するために設置していない施設の1つとして、富山県富山市にあるオーバードホール中ホールを対象とし、マリエやマルートと比較しながら調査を行った。それぞれの施設を利用する高校生に聞き取り調査を行った結果、勉強するために設置していない空間で勉強する高校生の理由が明らかとなった。勉強することを目的としない場所で勉強する高校生は、勉強しなければいけないと感じながらも、勉強しなければならないという空間からは解放されたいという気持ちを抱えていると考えられる。だが、利用実態について分析を行った結果、このような背景を抱えた高校生が利用している空間においても違いがあった。マリエやマルートでは、人の出入りが多く、人がたまりやすいスペースが複数個所あることに加え、利用者の目的がバラバラであることから、個人のスペースになりやすいと考えられる。一方で、オーバードホール中ホールでは、利用する高校生が固定されていることに加え、利用者が共通の目的を持っていることから、仲間意識が生まれやすくなると考えられる。その結果、オーバードホール中ホールを利用する高校生は、一緒に頑張る仲間がいることへの安心感を抱くことができたり、人とのつながりを実感することができたりするため、精神的に良い居場所として機能していると考えられる。

キーワード：若者 高校生 学習 居場所